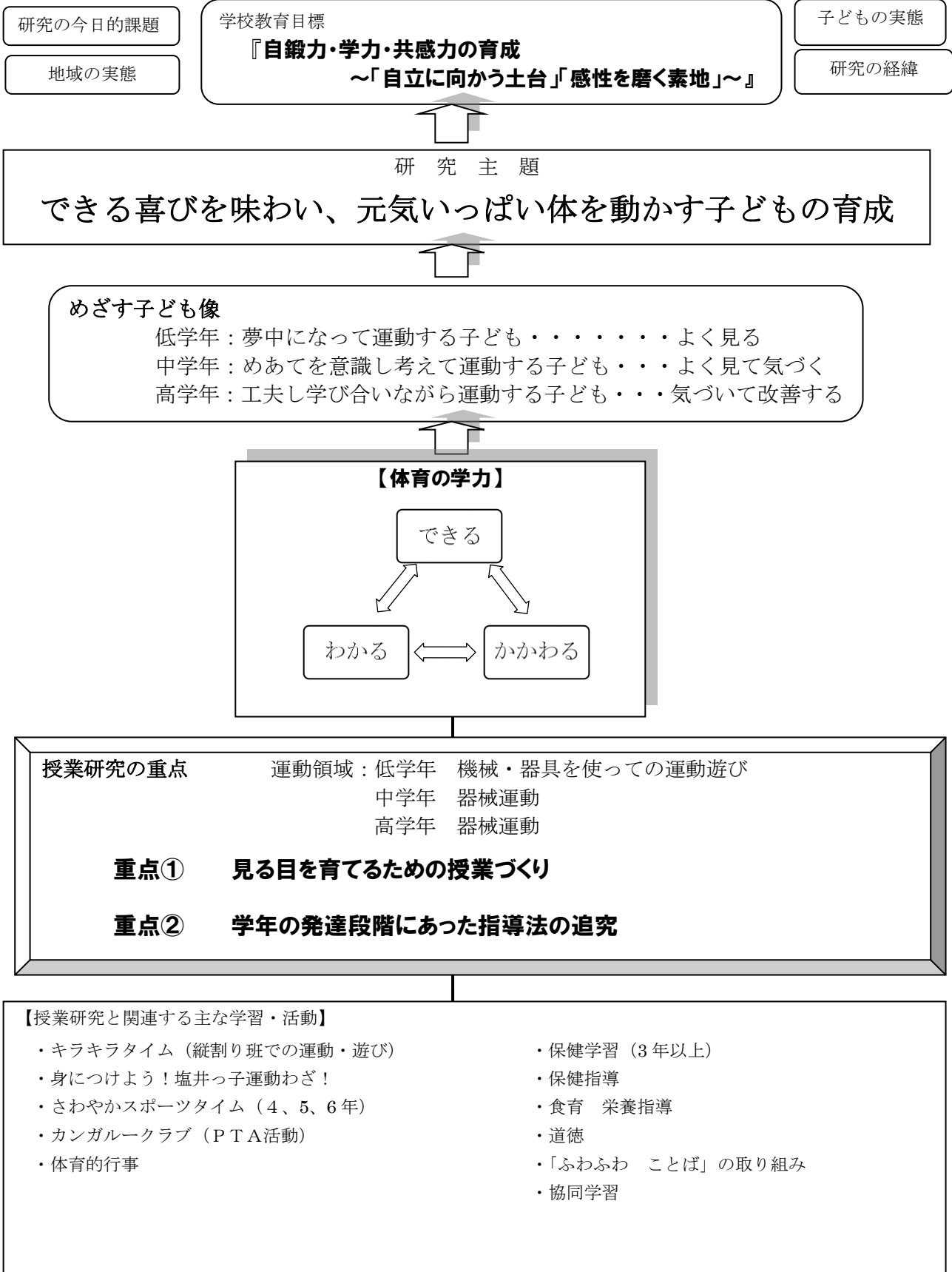


# 研究全体構想図



## 平成30年度 校内研修計画

### 1 研究主題

「できる喜びを味わい、元気いっぱい体を動かす子どもの育成」  
～「器械・器具を使つての運動遊び」「器械運動」2年次～

### 2 研究の概要

#### (1) 主題設定の理由

##### ① 教育目標の具現化に向けて

本校の学校教育目標

『**自鍛力・学力・共感力の育成** ～「自立に向かう土台」「感性を磨く素地」～』では  
めざす子どもの姿として、

挑み、関わり、自分を超越る

○運動や自己課題の改善を通して心と体を鍛える子ども

○進んで学びに関わり、精一杯考える子ども

○自他の命と生き方を大切にする子ども

「仲間をみとめる・仲間によりそう・仲間をはげます」

○自然とのかかわり、体験を通し、感動する子ども

を掲げている。これらの具現化に向けて体育を中心に取り組むことで、体力の向上のみならずあらゆる活動で、意欲や集中力、協力し合う態度などが高まっていき、「思いやりの心」「くじけない心」「自分の言葉で伝える力」「確かな学力」が身に付くであろうと考えられる。

研究主題の、「できる喜びを味わう」とは、運動の楽しさを感じながら、運動が「できる」ようになることである。「できそうだ」という意欲を持たせ、技能をしっかりと指導し、基礎を身につけさせていきたい。

「できる喜び」を味わうためには、運動が「わかる」ことが必要になる。ルールや作戦、運動のイメージが「わかる」指導を行い、「できる」ことにつなげていく。

「できる」「わかる」ためには「かかわる」ことが大切である。相手や仲間がいて「かかわる」からこそ「できる」し「わかる」のである。また、「できる」「わかる」ようになれば、さらにかかわりに深まりが出てくる。協同学習をベースとした、よりよい人間関係を作っていくかかわりや、運動そのもののかかわりを通して、生涯学習を意識した指導を行っていきたいと考えている。

これらのことを踏まえ、「できる」「わかる」「かかわる」のつながりを「体育の学力」としてとらえ、研究の中心として位置づけた。

##### ② 児童の実態より

本校は、長年体育の研究を継続しており、運動の特性に触れながら体を動かしたり、日常的に運動に親しみながら様々な運動技能を習得しようとしたりする児童が育ってきている。体育的な技能や運動能力の向上はもちろん、学習面や生活面でも、自分の目標に向かって努力し達成しようとする、前向きな姿勢を持つ児童が多い。

その一方で、運動面や学習面で課題を持っている児童も少なくない。学年の枠を超えた縦割り活動の意識も高く、そうした児童をみんなで支えて励ましていこうとする気持ちを持っている。

### ③ 地域の実態より

体育を中心に、学校体育の内容で構成される地域スポーツ少年団や各種大会への参加など、学校と地域が一体となって取り組んでいる。地域の協力により、運動や学習へ一層意欲的に取り組む児童が増え、そのよさは現在も続いている。

各種スポーツ大会での活躍、市の水泳記録会や市民総合体育大会スキー競技での男女リレーの入賞や優勝、県大会出場など対外的な面でも児童の活躍が見られ、地域活性の一翼を担っている。

### ④ 研究の今日的課題

新学習指導要領では、心と体を一体とした指導の充実が引き継がれ、時数もこれまで同様に示された。また低学年からの体力の基礎作り、生涯に渡って運動に親しむ資質や能力を身につけることなどの一層の充実も求められている。

本校では、長年の研究の経緯の中で、県や文部科学省、市の指定校として研究を進め、体育を中核とした学校作りに取り組んできた。運動の技能向上をメインに取り組み、子ども達も力を付けてきたが、さらに「できる喜び」を味わわせるためには、技能向上の指導だけでは足りないと感じ始めた。そこで、平成25年度からは「体育の学力」に着目し、「できる」「わかる」「かかわる」の3つをキーワードに研究を進めてきた。

### ⑤ 研究の経緯

- ・～平成18年度・・・子どもが生き生きと学ぶ魅力ある教材づくり
- ・平成19年度・・・どの子ども運動の特性にふれさせ、楽しませる
- ・平成20年度・・・人とのかかわりを大切にする
- ・平成21年度・・・「体づくり」「ネット型ボールゲーム」(現行指導要領実施を受けて)
- ・平成22年度・・・「ネット型ボールゲーム」の系統性検証 「ゴール型ボールゲーム」
- ・平成23年度～平成25年度・・・「ゴール型ボールゲーム」(バスケットボール)の系統性検証
- ・平成25年度～・・・「体育の学力」の提唱↓ 「体育の学力」をより充実させるために
- ・平成26年度・・・「ゴール型ボールゲーム」(ハンドボール)「体育の学力」の充実
- ・平成27年度・・・「ゴール型ボールゲーム」(ハンドボール)「気づき」を生む授業づくり
- ・平成28年度・・・「ゴール型ボールゲーム」(ハンドボール)「できる」ための効果的なかかわり
- ・平成29年度・・・「器械・器具を使つての運動遊び」「器械運動」見る目を育てる授業づくり

## (2)今年度の研究の方向性

### ① めざす子どもの姿

低学年：夢中になって運動する子ども・・・よく見る

中学年：めあてを意識し考えて運動する子ども・・・よく見て気づく

高学年：工夫し学び合いながら運動する子ども・・・気づいて改善する

### ② 研究の重点

重点1 : 見る目を育てるための授業づくり

- ・学びを深める友達とのかかわり
- ・ICTを活用した指導

重点2 : 学年の発達段階にあった指導法の追究

- ・場の安全、設定
- ・単元構成
- ・補助法

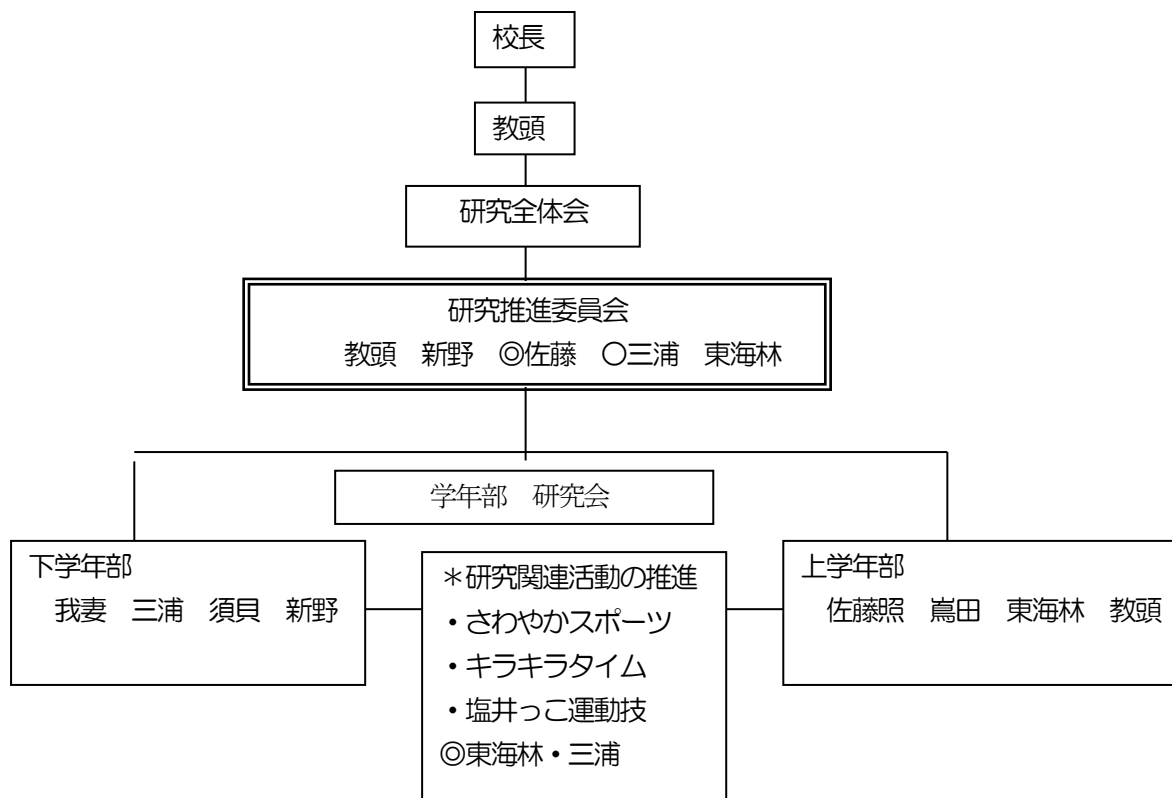
### ③ 研究の内容

「器械・器具を使つての運動遊び」「器械運動」2年次

ねらい① 自他の動きを見て思考させ、「できる」につなぐ

ねらい② 学年の発達段階に応じた教材や指導法を探る

### (3)研究の組織



### 3 年間計画

月	研究全体会	推進委員会	研究部会	備考
4	20 課題・組織・進め方	5 課題・組織 20 研修計画		
5			30事前研Ⅰ-①	17 体力テスト
6	19 全体事前研Ⅰ 28 授業研Ⅰ (2年・4年)		9 事前研Ⅰ-②	3 地区運動会
7		6 授業研Ⅰを受けて		
8			22 事前研Ⅱ-①	
9	7 全体事前研Ⅱ 14 授業研Ⅱ (1年・5年)	21 授業研Ⅱを受けて	5 事前研Ⅱ-②	
10				
11	19 全体事前研Ⅲ 30授業研Ⅲ (3年・6年)		2 事前研Ⅲ-① 9 事前研Ⅲ-②	7 学習発表会
12		4 授業研Ⅲを受けて		
1		21 今年度のまとめ 紀要について		21 中・高学年スキー教室 28 低学年スキー教室 30 中・高学年スキー教室
2				
3		20 来年度に向けて		

